



名瀬小だより

12月号

学校教育目標

自分・友だち・まちがすき

自ら学び 未来へとかがやく名瀬っ子

令和元年 11月29日

横浜市立名瀬小学校

校長 中嶋 孝宏

とくべつ ひ 特別でない日

こうちよう なかしま たかひろ
校長 中嶋 孝宏

10月31日に「区音楽会」が開催され、3年生が戸塚公会堂で演奏・合唱をしました。なんと一番始めの発表でした。「ドキドキする」と言ってステージに向かう顔は真剣そのものでした。そして歌とリコーダーによる演奏をやりきりました。みんなで力を出し切った見事な発表でした。練習を重ねてきたからこそ味わえる達成感、みんな誇らしげでした。

11月18日には1年生と名瀬幼稚園、こんにちほ・ありがとう園、名瀬いちい保育園による「なかよくしようね～あきがいっぱいわくわくあきまつり」を本校で行いました。笑顔があふれたステキな時間となりました。

11月8日から21日までは「作品展」が開かれました。みんなの作品が各学年のフロアで展示されました。個別支援学級は「あいぞめと写真たて」として、わゴム、わりばしなどを使い、縫って絞って模様をつけました。1年生は「どうぶつむらのピクニック」は、色々な箱の形を組み合わせて好きな動物を作りました。2年生は「あつめてならべていいかんじ」は、落ち葉を紙に貼り筒状にした作品です。3年生は商店街「いらっしやいませ！カラフルねん土のお店へようこそ」は、紙粘土によるお店の出店です。4年生は里山の主人公「里山たんけん」として学習を続けている里山のマイ主人公を木などで表現しました。5年生は「糸のこドライブ」でした。図工で学習した糸のこを使ってベニヤ板を加工して作る作品にチャレンジしました。そして6年生は「動きだすストーリー」で、走りだす馬や、友だちに手を振る人など、厚紙による動く作品を制作しました。どれも発想豊かで素晴らしい作品でした。子どもたちの感性は本当に素晴らしいです。

11月26日から27日は4年生による上郷宿泊体験でした。誰一人けが無く元気に行けました。そして「自然の中で協力しあう」という目標を見事に達成しました。夜のキャンドルファイヤーのみんなの盛り上がりは最高！でした。到着式での言葉では「来年は高学年として」という力強い言葉が寄せられました。心が震えました。たくましくなっています。

そして、11月は行事やイベントが特でない「普通の授業」が続く期間でもありました。この特別でない日が実はとても大事です。1時間1時間のそれぞれの授業から自分なりの新たな発見や学びをし、それが積み重なる時間です。6年生の授業では「算数の比例の問題に集中」「国語の読み取りに向き合う」「音楽で歌を真剣に歌う」など自分なりの頑張りを見ることができました。その一つ一つが「自分を大事にしている瞬間」です。そこで得られた学びは将来の大きな力となります。そして自分の意見を言ったり、考えたりするには相手があります。人は他の人とのかかわりから成り立っています。そのことに気づき大切にしてほしいのです。ご家庭でも子どもたちの「今日の授業での発見」「小さな気づき」などの話に耳を傾け、成長を見守っていただければと思います。